

【日本の中世史における自由と平等】

s. kazumitu

□日本中世史学は、何とも言いようのない閉塞感 日本中世史は元気がない？

□日本には他国に例を見ないほど、大量の史料が残されている。何故か？

歴史史料が保存 ジェノサイドがない 温暖化 作物の安定性

古記録 当時の社会政治を知る 上級市民

古文書 一般市民

※歴史学は科学だから、ウラを取る。 古文書 古記録

□中世史観の中心となるのは王権論 東の王権たる鎌倉幕府&西の王権たる朝廷

□中世における自由とは、強者が弱者に対し勝手気まま、強者のみが行使の自由？

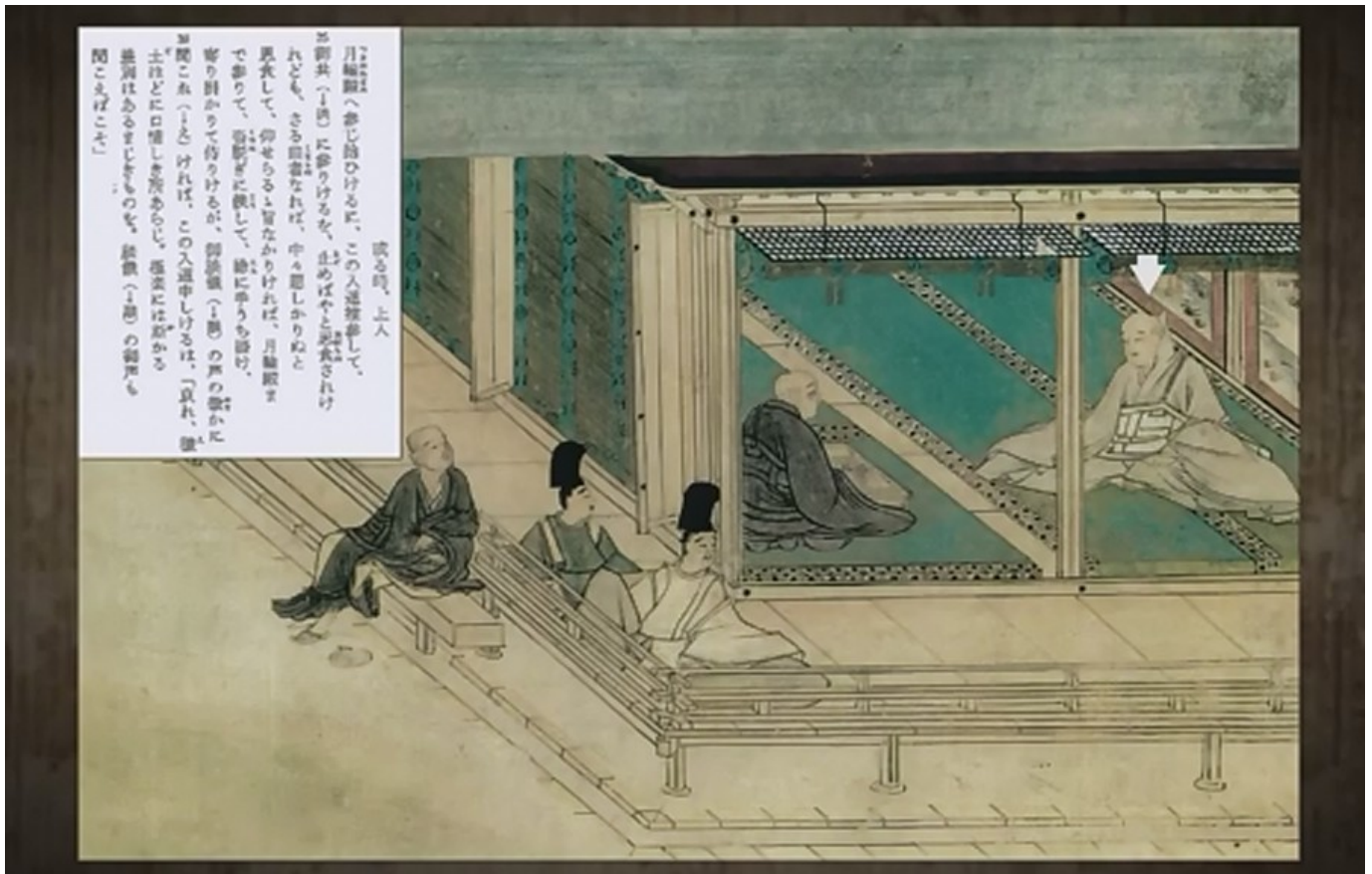
□ヘーゲルは「自由とは所有である」

自由とは「己の人格を己自身が所有し、己自身が己自身を任意に処理できる」ことである。

□[承久の乱]の結果、[地頭]（一円知行化）→ 守護大名～戦国大名と繋がって、所有権に対する意識が成熟していった。[太閤検地]

□西暦600年ぐらいで日本列島に住んでいたのが600万人

- ・1600年 関が原 日本の中世が終わった？ 1200万人
- ・江戸時代というシステムが大体3000万人の人口(幕末～明治)へ なぜ？
- ・「人口増加から見ると自由ではなく平和か」→「江戸の平和」



□『法然上人絵伝【ほうねんしょうにんえでん】』

[法然]のもとで出家した蓮生（熊谷直実）が師に随従して九条兼実邸へ赴いた時、供待ちで待たされたことに対する不満の言動が伝承されている。

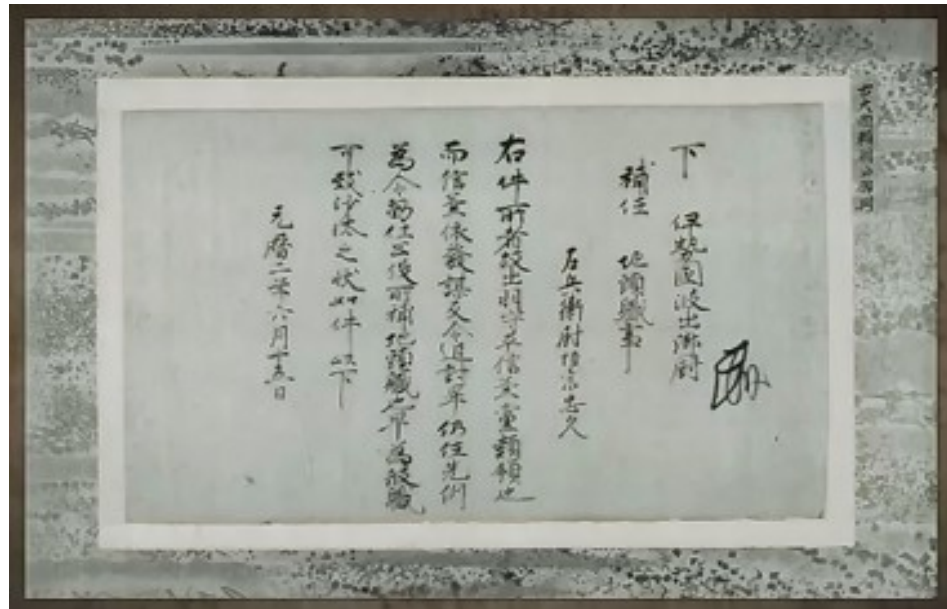
「平等は一定以上の階層のものか！」縁側にも上がれない熊谷直実。平等への叫び。



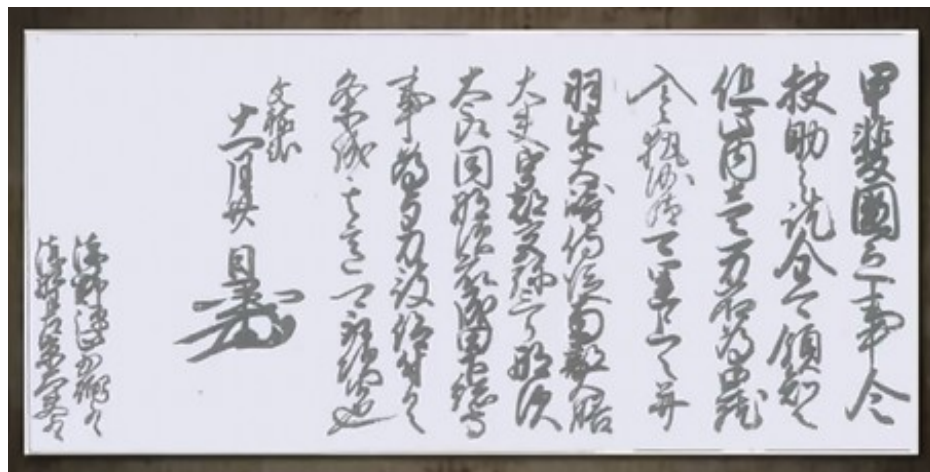
□『男衾三郎絵詞』【おぶすまさぶろうえことば】

男衾三郎（武蔵の国の有力武士）の門の前を通りかかっただけで、鏑矢で射られたり、殺されて生首をさらされたりすることが半ば平然として行われていた。

人を殺す自由、男衾三郎の世界？



・源頼朝 古文書 花押 土地 地頭任命のみ 様々な条件 荘園制



・豊臣秀吉 古文書 花押 土地 浅野長政へ 甲斐国の土地は全てやる

□花押【かおう】 文書の末尾などに記すサインの一種。